

子供が靴を反対に履く理由【2／2編】

・面ファスナーが内側にあった方が留めやすい

子供の靴でよくある面ファスナー。左右反対に履いた方が留めやすいのだそうです。左右正しく履いた場合、面ファスナーを留める場所は外側になります。そうすると、手首を外側にひねらなければなりません。この動作は、子供にとっては意外と大変な動きになります。でも、反対に履けば面ファスナーは内側に来るので、手首をひねる必要がありません。留める時もガニ股でよいので、姿勢もこちらの方がラクなのです。

・まっすぐ物を取るより斜めに取り方がラク

反対側の靴を取る方がラクという可能性もあります。右手で物を取る場面を想像してください。まっすぐ、または右側に手を伸ばすより、ちょっと左側に手を伸ばす方がラクではないでしょうか。つまり、子供は手を伸ばした方にある靴を取っているだけ。だから、正しく置いたはずの靴が反対になっていることもあるようです。

ポイント3)焦らずゆっくり教えていけばそのうちできるようになる

言葉や左右の理解、体の使い方……。子供の発達を考えると、5歳前後までは間違えることがあっても大丈夫です。焦らずにゆっくりと教えていきましょう。

叱る必要はありません。せっかく自分で履けたのに、「違うじゃん」「それじゃ反対だよ」と指摘されればやる気がダウンします。まずはほめて、それから直すことを促してみましよう。「一人で履けたね。でも反対にするともっとカッコいいからやってみる？」という感じです。嫌がるのであれば、そのままでも良しとしましょう。

また、やられている方もいらっしゃるかもしれませんが、マークを付けたりするのもおすすめです。靴の内側にマークを付け、「くっついたら正解」とするとわかりやすいですね。これなら、左右の理解ができない小さな子供でもOK。楽しみながら正しい靴の履き方を覚えていきます。

《最後に》

さて、この記事を読まれてどの様に感じられたでしょうか。ご存知の方もいらっしゃったかもしれませんが、私は、「子供なりに“理由”があるんだな～」とつくづく考えさせられる内容でした。

左右反対に履いていると、保護者の方は気になると思います。しかし、まずは一人で履けたことをほめてあげてください。

まだ、左右反対に靴を履いているお子様がいらっしゃるのでしたら、焦らず叱らず、左右のことは少しずつ教えながら、成長を見守っていきましょう。